

展示紹介 —————

戦後の乱歩作品出版状況

乱歩邸展示室では今年度、乱歩の古書収集を支えた昭和二十一年（一九四六）年から昭和二十三年（一九四八）年までの出版物の一部を御覧いただきます。



乱歩が収集を始めたのは、昭和六（一九三一）年頃からです。六（一九三一）年頃からですが、旧蔵書の約九割は昭和二十二（一九四七）年以降に購入されました。

これは、戦後の蔵書家が古書を手放したことや、当時制限された時代小説の代わりに、探偵小説が大衆の読書熱の受け皿となり、昭和二十一年から探偵小説ブームが始まったことが大きな要因となっています。昭和十七（一九四二）年から昭和二十（一九四五）年まで、全く出版されなかった乱歩の作品も、この年から次々と再版されるようになります。展示のような作品の出版数が増えた翌年から古書購入数も増加しており、探偵小説ブームが乱歩の古書収集を支えていた様子がうかがえます。

編集後記

旧江戸川乱歩邸の二〇一八年一月から十二月までの来館者は、五四六〇名を数え、巻頭にコメントをいただいた斉藤詠一氏を始め、多くの方々に足をお運びいただきました。ありがとうございます。新たに開設した展示室では折を見て展示替えも行うつもりです。また、再訪の際もお楽しみいただけるかと思っております。なお、応接間の庭に面した開口部に、新しくガラス戸を設けました。時間帯によっては、庭の様子が反射し、見難いこともあるかと思いますが、展示品保護のためご理解のほどよろしくお願いいたします。

当センターでは研究の一環として所蔵資料の整理を進めております。今回はその中から、乱歩の帽子と希少な雑誌『探偵クラブ』の二点を紹介いたします。いずれも乱歩の人となりうかがえる貴重な史料です。

今回初めての企画として、おすすめ本のアンケートを実施いたしました。バラエティに富んだ作品の数々は、大衆文化や乱歩に関する研究の手引きとして、また徒然の慰みにご活用いただけるのではないのでしょうか。ご協力をいただいた皆様、感謝申し上げます。

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

センター通信 第十三号

二〇一九年三月三十日 発行

編集・発行 立教大学江戸川乱歩記念

大衆文化研究センター

〒一七一八五〇一

東京都豊島区西池袋三―三四―一

電話番号 〇三―三九八五―四六四一

(FAX兼)

rampo@rikkyo.ac.jp

公開日 水曜・金曜・祝日は除く・臨時公開日
(十時三十分〜十六時)